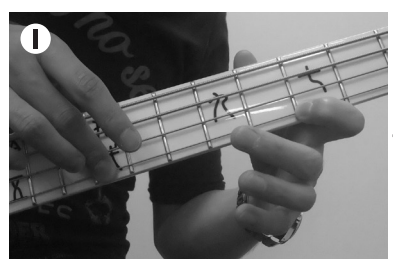


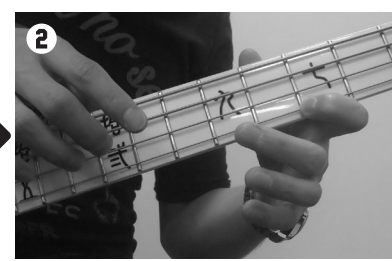
注意点1 右手&左手

右手のタッピングの合間に左手のトリルを埋めていこう

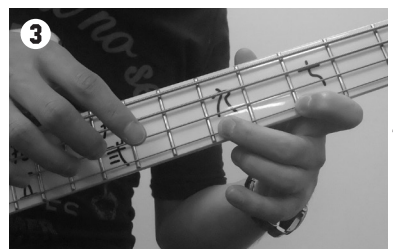
メイン・フレーズは、タッピングを行なう右指が1〜3小節目が人差指と中指(写真①〜④)、4小節目が人差指・中指・薬指となる、特殊なライト・ハンド奏法で演奏する。右手のタッピングから左手のプリング&ハンマリングへの切り替えをスピーディに行ない、6連符フレーズの“音の密度【註】”を一定に保つように心掛けよう。4分音符で足踏みを入れて、しっかりリズム・キープしながら、8分音符のタイミングで入る右手のタッピングの合間に左手のトリルを埋めていくイメージで演奏するとよい。“ベース・アスリート”としてのポテンシャルを高めてこそ弾けるフレーズなので、両手の瞬発力をしっかり鍛え上げよう。



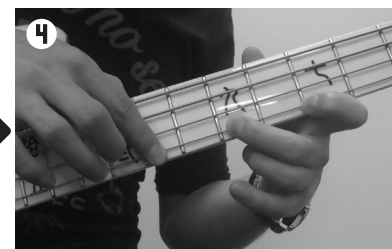
1小節目1拍目。まずは右手中指で1弦12fを叩く。



右手のプリングで、7f(左手人差指)に繋げる。



続いて、左手中指で9fをハンマリング。



今度は右手中指で11fをタッピングしよう。

注意点2 右手

右手2本指を活用するレガート・タッピング

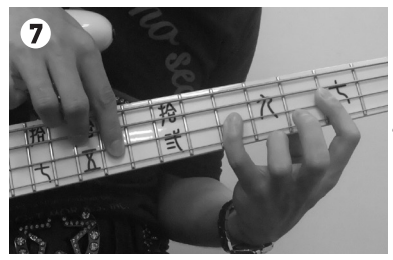
ハンマリングやプリングは、ピッキングをしないで発音するため、フレーズにレガート感(滑らかさ)を与えることができる。松フレーズでは、右手の2本指でハンマリングとプリングを弾くレガート・タッピングを活用して、滑らかなラインを作ろう(写真⑤〜⑧)。1小節内の音の区切りは、16分音符で“6音→6音→4音”という3つのブロックに分かれるが、各ブロックの出だしの4音がレガート・タッピングになる。1音目でタッピングする右手中指は、続く中指のタッピング&プリングが終わるまで、押弦し続けることが大切だ。そして4音目では、人差指のプリングで左手小指にしっかり繋げよう。右手中指と中指を駆使して、音と音の“橋渡し”を的確に行なうべし!



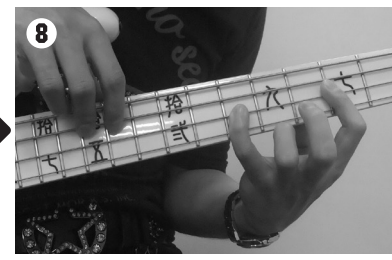
1小節目1拍目。右手中指で14fをタッピング。



中指のタッピング時に人差指が離弦しないように注意。



中指のプリングで、人差指の14fを鳴らそう。



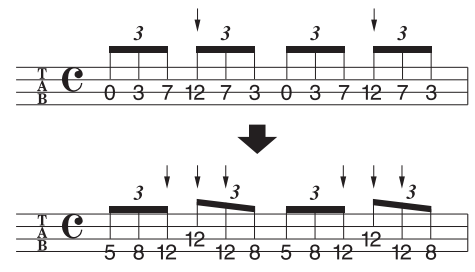
続いて、人差指のプリングで左手小指に繋げる。

~コラム29~ 将軍の戯れ言

ベースとギターによる高速ユニゾン、超絶系バンドの醍醐味の1つといえる。ただし、ライト・ハンド・フレーズでユニゾンする時には注意が必要だ。ベースは、ギターと比べてフレットの幅が広いので、ギターと同じポジションでライト・ハンド奏法を弾くのは困難なことがある。そこで、上下の弦移動を取り入れたポジションに変えてみるとよいだろう(図1)。こうすることで、左手の負担が減り、ライト・ハンドを速く滑らかに弾けるようになる。弦移動時のミス・タッチに気をつけながら、ギターとの高速ユニゾンをキメてほしい。

弦移動を取り入れて、左手の負担をカット! 高速ユニゾン・フレーズの正しい作り方

図1 ベースに適したライトハンド・ポジション



このストレッチは、ギターでは弾けるがベースでは不可能。

弦移動を取り入れたフレーズに変えて弾こう!

【音の密度】6連符フレーズに慣れていない人は、例えば1拍内に6音を入れることができたとしても、音の間隔が均等ではないことが多い。勢いだけで音を詰め込むのではなく、1音1音の長さを正確に取ることが大切だ。